

猫娘調教済ご奉仕出産編

妖怪種づけ



成人向け  
R-18

かしこ村  
かしこあきら

「ちよ、ちよつとー。本当にこんな所でやるの？誰か来たり見られたらどうすんのよ…。」

「うひひひひ♪だからこそ興奮するんだらう。野外だからこそその開放感！誰かに見られるかもというスリル！猫娘よ、お前さんもそう言いつつすつかり興奮してるんじゃないか？」



「は、はあ!?な…何言ってるのよ!」

「あんたなんかと交尾すること自体本当は嫌なのよ!バカ!」

「幼い時しちゃったからそれでその…関係もっちゃったから仕方なく…ね…。」

「ふうーん。自分からせつせと服を脱ぎお股もすつかり濡れて糸を引いてるよつかに見えるがねえ。」

「い…いれは…さ…さ…さつさと済ませたいからよ!ほら、とつとと終わらせるわよ!」

「ではまずはお誓いのキスをー♡んちゅらんらん♡」

「んちゅ♡パツカみたい！ちゅ♡  
毎回毎回同じことして…べろお♡  
何回誓えば…ちゅ♡う♡う♡う♡  
ぶはっ。気が済むじゆるる♡のよ！  
んちゅ♡べろ♡んべええええ♡」

（ふふふり表面上はツンツンした  
態度を装っているが、自らねっとり舌を  
絡めてきおって、この助平猫め！  
幼女化した時何度も何度も  
交わい全身を馳り弄くり犯し  
中出ししては妊娠出産を繰り返したからのお。  
大きくなってもミイツはすっかり  
調教が済んだわし専用の  
苗床性奴隷になっておるわい♡）

「んぶはあ♡」

（相変わらず美味しいう唾液  
♡キスだけで軽くイっちゃった♡）

「んええ♡どれ、今日はこの立派に育った体全身を使ってご奉仕してもらおうか♪」

「ではまず回れん」でわしのちんぽをキレイにしてもらおうか。」

「ちゅ♡ちゅ♡んもー臭いわよ洗ってないでしょー。つたくネズミ男じゃ  
ないんだから…。私とするつていうのに、デリカシー無さすぎ！かぼっ♡」  
（んんっ！臭くて苦いなあ。でもこの濃い味がかえってクセになるのよね♡  
キレイにしがいがあるし…！っばい舐めて垢や汚れを食べ尽くしてやるんだから！）

「うおおっ♡  
上手くなったもおんだのお。  
そうそう、歯を立てず  
美味しそうに  
しゃぶるんだでお。」

「うおお。んぐ…んんん♡」  
（当たり前でしょ！美味しそうじゃなくって、本当に美味しいんだから♡）

「いっ♡うほおほおほ♡素晴らしい口淫技だわい。  
まっ♡あ♡は♡た♡わ♡ほれ、こぼさず全部飲んでみせい。」

「んっ♡んぶうっ!!んぐ…ゴクゴク♡」

（うっさいわねー。こぼすなって言うならこんな大量に  
射精するんじゃないわよ!

こんな熱くてドロドロして生臭くて…とっても美味しいの  
私だってこぼさず全部飲み干したいぐらいなんだから♡  
んんっ♡口内射精で私もまたイっちゃった♡）

「今度は腋で♡奉仕だなんて…とんだ変態ねーアンタ。んっ♡んっ♡  
こんなので♡がいのよ。ふう♡ふう♡こんなんて感じちゃうなんて  
ホント呆れるわ…はあ♡はあ♡」

「そんな♡とはないぞ猫娘。女の腋は立派な性器なんだぞ。  
特に猫娘のようなすべすべで張りのある素晴らしい腋まん♡は♡」  
「んんっ♡何…腋まん♡とか言つて…んんっ♡  
キモいんですけど…んんっ♡」

「ぐひひひひ♡我慢しなくてもいいんだぞ。なにせ幼女のころから  
舐めまくりすっかり性感帯に調教しておるからのお♡ほれ、  
まん♡らしく精液をぶっかけてやるわ!」

「んんっ♡ああああああ♡あ、熱っ!」  
「本当に腋でイっちゃうなんて情けないわね!。んんっ♡バツカみたい。」  
「でも…私も腋でイっちゃった♡おまんこみたいにあんないやらしく擦るんだもん♡」

「今度は足りない？んっ♡んっ♡ほっんとバカね♡んにやっ♡」

「何を言うか！猫娘のスラッとしたこの美麗なお御足こそ  
男の憧れ、男の浪漫よ！んおっ♡素晴らしいぞこの触感♡  
すべすべしっつじめっつと蒸れててはゆるたゆるたゆる包み込まれるこの感じ、  
まさに足まんこだわい♡おっ♡ふっ♡ほお♡」



「あははは♪足なんかで情けない声出しちゃって。バカを通りこして  
なんか可愛く見えてきた。にやっ♡ほれほれ、お望み通り足で弄くりたおして  
あげるから、さっさとイっちやいなさい。んんっ♡」

「うおおおあつ♡見事な足技だ！  
足まんこでイクぞおー！」

「いやはははははは♪足でイっちゃった！  
びゅーびゅーいっぱい出しちゃった♡  
本当にしようもないわねアンタのちんぽ♡  
アンタがそんなに感じて私の足をまんこ  
扱いするからすっかり私もイっちゃったじゃない♡  
んんんっ♡全く足や腋でこんないっぱい出して  
本番分ちゃんと残ってるんでしょうね！」





「大丈夫！ほれほれ、まだまだこんなガチガチに勃起しておるだろう？」



「んっ♡んっ♡んっ♡♡♡  
じゃ、じゃあ素股で焦らしてないで  
さっさと入れなさいよ！  
足や腋なんかでイっちゃうそのちんぼじゃあ  
素股だけでもすぐイっちゃうでしょ！」

「くひひひひひ。  
おねだりか  
猫娘。どれ、ではい  
よいよ挿入っ♡」



「にやひっ！  
は、入ってきたあ♡  
太いのが、  
私の奥まで  
一気にいいっ♡  
にやあああ  
あああああ♡♡♡  
「これ」「これ」「これ」  
このミニミニと  
おまんこぶち破る  
ように押し拵げ  
られるこの感覚っ♡  
たまんないいい♡♡♡」



「にやああああああ♡にやだっ  
、こんな格好…恥ずかしい…。  
それに…こんな激しく…  
んにやあああ♡音立てて…  
あっ♡ああっ♡  
本当に…誰かに…  
気付かれちゃう…  
にやいいいい♡♡  
イクっ♡♡♡」

「なら大声で喘ぐのをやめなさい。ほらほら、音を立てているのも  
お前のグチヨグチヨに濡れたおまんこじゃないかあ。ふっ♡ふっ♡  
イクたんびに抱きつくように絞めつけおって♡  
本当は誰かに見られたいんだろう！わしたちが愛し合っている様を  
みせつけたいんだろうっ！」

「んにやああああああ♡  
そんなこと…にやいいいい♡  
こんにやに激しくするからあ。  
んにやっ♡声もでちゃうし  
おまんこもビチヨビチヨに  
なっっちゃうのおおお♡♡」

「後ろから突くのも堪らんのおー♡  
この尻肉の柔らかくて弾ける感触♡  
ばんばんと響く音♪  
心地よいぞお♡気持ちよすぎて…  
おほっ♡そろそろわしも…  
イかせてもらおうかのお♡」

「んっ…んにいいいいっ♡ふっ♡ふっ♡  
ら、らめよーこのまま出したらーこの体勢で出したら…  
抱きつけないじゃない！キスできないじゃない！  
中に出す時ががっしり足で抱きつきながらディープキスしながら  
一緒にイクって教え込んだのアナタじゃない！んんんっ♡  
バックもイキまくるぐらい気持ちいいけど、「このまま出すのは  
ダメだからね！」



「ふひひひひひひ♪今日も立派に孕んだ孕んだ♡  
妊娠にもすっかり慣れたようだのお。容姿も大きくなったためか、  
妊婦姿がすっかり板についておるわい。」

「ふ、ふんっ！アソタがバカみたいに  
何度も何度も妊娠させてきたからでしょ！  
幼い体でもお構い無しにまったく…。  
今さらもう驚かないわよ。  
それより、ほら、いつもみたいに  
おっぱい飲むでしょ。  
今のうちしかおっぱい出ないから、  
さっさと搾って飲みなさいよ。」

「いやいや、今日は奉仕させると言ったたろ。だからそのデカパイで…♡」  
「え？」



「んたやあつ♡」

「こ、今度はおっぱいでするの?」

「ああ。猫娘は大きくなっても巨乳にはならなかったからねえ。もちろんなあのつつましいサイズはかわいくって好きなんだけど、パイズリは流石に妊娠状態じゃないとできないから。ふっ♡ふっ♡いいぞお柔らかくてす♡す♡」

「んっ♡にっ♡んもー」

「しょうがないわね…にやあっ♡おっぱいでも感じちやう♡おまんこみたいにお乳がぴゅーぴゅー噴き出しちやう♡♡」

「ふっ♡ふっ♡出すぞー! 妊娠おっぱいおまんこに出すぞお! おちんぼもミルクと一緒にミルクまみれになれええ♡♡」

「にやああああああ♡おちんぼからも白いのいっばい出たああ♡んにやっ♡精液の匂い嗅いだらおまんことお腹刺激されてっ…く、クッる! 出てくる! 産まれる産まれる産まれるうっうっ!」

「んにゃあああああああああああああああああああーっ♡♡♡♡♡  
産まれたあああああああああああああああああーっ♡♡♡♡♡」

「ぐひよおーっ♪今回は多産ではなく今までにない大きな子を  
産み落としたようだのお♡こんな大きな子を産めるほど  
立派な苗床に成長しておって…。妖怪種づけとして誇りに思うぞ。  
これからもいっぱいいっぱい交尾していっぱいいっぱいわしの子を  
産んでおくれよート」

「わ、わかってるわよ♡その代わり、ちやーんと責任は取ってもらおうんだから！  
これからもずっとずっと気持ちいい交尾してもらおうんだからね♡♡」



































